

11 母親と衛生士の情動的な関わりについて 私達の考えること

○増田展子、渡辺千香

はるおか歯科・北九州市

私達の歯科医院にお見えになる、お子さんのうち、少数のお子さんの中には、非協力的な患児もいます。

そこで、母親（保護者）の協力が得られないと、治療が円滑に行えません。

子供をはげますのはもちろんの事、母親に対しても、それ以上に気をつかい、治療の説明をするのはもとより、この母親の心境をいかに理解し、スタッフがフォローしていくかが、大切であると考えます。

そこで、母親をよく理解し、たかぶっている気持ちをいたわりはげますのが、私達の役目のひとつです。

この様な、母親の示す言動などから、母親（保護者）の心理というものをよく観察して、いくつかに分類し、それぞれに、私達がどのように、保護者と接するのが、より円滑な小児の診療を行なうのに役立つのかを、考えてみました。

12 当院における保健指導について — リスク分けに関する一考察 —

○岡本直子、岩男好恵、赤田有可、
小島哲一郎、柏木伸一郎
小児歯科柏木医院・福岡市

小児歯科においては、正常な永久歯列を完成するために、定期検診が必要不可欠であると言われています。また近年、う蝕の軽減化が各方面から指摘されており、当院においても昨年1年間の新患患者のうち、約25%がカリエスフリーであり、予防を主訴として来院している者も約30%に達しています。このようなことから、定期検診における予防管理の重要性が、増してくると思われます。これを達成して行くには、将来のう蝕罹患状態を予想して、指導および処置を行なうことが大切になります。

当院においては、う蝕発生の要因と考えられる項目を、初診時・定期検診時に診査しており、それによりリスク分けを行なっています。今回は、総合的な予防管理を目指す前段階として、リスク分けが臨床的に妥当なものか検討してみました。

方法は、1988年9月より1989年3月までに当院を受診した新患患者のうち、3才以下の患児を対象としました。Dental ageによりICとIIAに分け、さらにICを第1乳臼歯萌出前と萌出後によりIC（前期）とIC（後期）の3段階に分類しました。診査は、口腔内・ブラッシング・間食・食事の状態および患児を取りまく環境と母親の意識について行ないました。また、指標の一つとして、RDテストを用いました。

これらの診査項目が、新生う蝕の発生にどのように関連しているかを、初診時および定期検診時で比較することにより検討しました。また、う蝕の直接的要因と考えられるブラッシング・間食・食事の状態に対し、環境要因がどのように影響を及ぼしているかも合わせて検討しました。この結果により、将来のう蝕罹患状態を想定したリスク分けが可能になり、また、それぞれの患児に応じた保健指導および予防管理の向上が望めると考えています。